

2018 年度 神戸大学男女共同参画推進室 ユネスコチェアサマープログラム 感想・報告書
 2018 Kobe University Gender Equality Office UNESCO Chair Summer Program Reflection Report

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course
保健学研究科	パブリックヘルス領域 国際保健学分野

(1) 見たこと/What you saw; (2) 考えたこと/What you thought; (3) 感じたこと/What you felt
今回のサマープログラムへの参加を通して、多くのことを学ぶことができたと同時に、自身の研究に役立つ情報も集めることができた。やはり、実際に行って自分の目で見てみなければ分からないことがたくさんある。津波が来た際のシェルターが海辺に建てられていたことには驚いた。今まで、被害がないからといって、安心してしまっているのではないかと感じた。今年の西日本豪雨の被害の大きかった岡山県でも、災害の件数は少なく、「晴れの国、岡山」として県民の方々も誇りにされていたと聞いている。自分たちは大丈夫だろうと思っ
てしまっている現状がどこの地域でもあるということが課題の1つとなるのではないかと感じた。
ジェンダーについては、自分はまだまだ全然考えることができていると実感した。私個人の意見では、役割を決める時や日常生活において「男だから・・・女だから・・・」という考えはなく、個人個人の性格や特徴を見て考えればよいと思っていたが、男女に身体的な違いがあることも事実であるということまで考えることができていなかった。また、避難所において女性が性被害にあうという様な女性の被害はよく聞かすが、今回のプログラムで男性の抱える問題が見過ごされがちである可能性にも他の学生の意見から気づくことができた。
ジョグジャカルタのメラピー山の防災やハザードマップなどは作られており、一見、防災システムや教育が進んでいるように見えたが、住民の方々の自助意識は低く、減災への準備が足りていない現状があると考える。災害の専門家の方の意見では、小学校では、避難訓練も実施しており、防災に関する授業も行われているというところであったが、現役大学生に小学生の時のことを聞いたところ、防災教育は少しはあるが十分ではないと
考えている者が多かった。この相違を聞いただけで、効果的な内容や浸透しやすい教材を用いることが重要であると考え、実際の教育場面を見ていないため、明確には言えない。自分の目で、教育場面を見る必要があると感じた。
このプログラム全体を通しては、日本人だけでなく、他の国の学生や先生の意見を聞くことができ、自分にはない考え方や、共感する点など、様々な考えを聞くことができとても興味深かった。また、集まっている学生
の分野が多様であるということも、斬新だと感じる意見を聞くことができる要因であると感じた。
私の個人の反省としては、発言があまりできなかったことである。英語に対して苦手意識があり、アカデミックな場面で自分から積極的に発言することができなかった。また、他人の意見にすぐ賛同・納得してしまう
所があるため、他人の意見を自分の中で消化できるようにしていきたい。

今回のプログラムは国籍・専門分野多を問わず多くの仲間に出逢え、刺激を多くもらうことができた。今後
その仲間たちと、災害の分野だけでなくあらゆる分野で一緒に活動できるのではないかということがとても楽し
みである。